THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年四月十七日　毎土曜日發兌　第拾八號

此の繪の説明ハ本紙中に在り

The Engraving illustrated in another page.

東京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第十八號目次

●官報●女學叢談●急激の進歩ハ不進歩の基●中外新報拾四件●家庭の鑑●東照宮御消息の續き●英語の栞（附羅馬字話なし）●泰西箴諺の直譯●内外列女傳●松田さつ女の傳（前號續）相澤いゑ子の譽れ●遊女花岡の孝心●女優ポーターの豪膽（表壽傳）●菲芳詞苑●女紅香道（前號續）●裁縫（一ッ身裁方）●ワールン氏西洋料理法の飜譯（前號の續き）●稗史小説●英國剪燈情話（第三回の續き）●御伽草●机の塵

明治十九年四月十七日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に内規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附わらんとを希ふ〇郵劵代用ハ御斷り申上候然一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割増を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ共爲替劵を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

明治十九年 女學叢誌毎土曜日發兌表

月					
一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自二十一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自三十一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎官報

本年四月九日

○朕師範學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治十九年四月九日

内閣總理大臣伯爵　伊藤博文
文部大臣　森有禮

勅令第十三號

師範學校令

第一條　師範學校ハ敎員トナルヘキモノヲ養成スル所トス但生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス○第二條　師範學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス○第三條　高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ○第四條　高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方税ヨリ支辨スヘシ○第五條　尋常師範學校ノ經費ニ要スル地方税ノ額ハ府知事縣令其豫算ヲ調整シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ○第六條　師範學校長及敎員ノ任期ハ五箇年トス滿期ノ後猶ホ繼續スルコトアルヘシ○第七條　尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼ヌルコトヲ得○第八條　師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル○第九條　師範學校生徒ノ學資ハ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ○第十條　高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及敎員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及敎員ニ任スルコトヲ得○第十一條　尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及敎員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及敎員ニ任スルコトヲ得○第十二條　師範學校ノ學科及其程度幷敎科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

◎女學叢譚

○急激の進步ハ却て不進步の基（前號の續）　樫村瑛子

和氣淸麿の姉廣蟲ハ節操搉る所ろなき婦人にして其規模の大ひなる歎賞すべきなり孝謙帝に仕へて正六位の下に叙し帝御落飾の後自から薙髮して法均と號せり時に藤原の仲麻呂誅に伏し其連累せるもの數百人皆斬罪に行ハるべかりしを法均の諫により帝その死罪を減し流罪に處せられたり其後天下大に飢へ加ふるに疫病流行して民人殊に艱苦し子を生むものありといへども育つる事あたハずとゝかしこに棄さりけれハ法均之を憐み人を遣ハして皆拾ひ取て養育せしもの凡ろ八十三人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

こと〴〵く養子と稱したりよりて姓を葛木首と賜ふ其後弓削道鏡の事によりて備後に流されけれども光仁帝踐祚ありて後召還されたり帝常に歎賞してのたまはく諸の侍從警御のものどもの人を毀譽するは朕常に之を聞けども獨り法均のみは人を毀譽せし事朕嘗て聞しことなしと此人身賤しからさるを以て人を養ふ力も多くありたる事にはあるべけれとも一婦人の力を以て八十三人を養ひ皆養子と稱したるは實に驚くべき事業にしてかゝる人今の世に出たらんには必す文明の母となりて世に益ある事多かるべし其人を毀譽せざるは女子のよく記憶して師とし學ぶべき所なり又松下の禪尼は鎌倉執權北條時賴の母にして秋田城介景盛の女なりある時時賴を召して馳走ありし時尼親ら障子のきりばりをせられしに其兄義景申されしは切張せるは若かず皆張かへたらん方手數を省くべしと尼の曰く我もさる事知らぬにあらねど凡そ物はすこしき破れある時に早く補ひ置ざれは遂に大破にいたるべし我いまことさらに之をなすものは兒輩をして此意を知らしめんが爲なりと時賴此母教を守り傳へし故北條氏の政理寧靜なりしは世人の賞せし處なりこれ尼の教へ儉を以てせしによる此儉質に師とすへき所なり紫式部著す所の源氏物語五十四帖は現に今世に傳ふ所にして其事蹟は醍醐朱雀村上三朝の事に假託して架空憑虛なりといへども其文の精妙なるは上下數百年間に獨歩し前に師なく後に續く者なし實に詞家の宗なりと謂ふへし而して其人となり貞操を守り且己が能に矜らす誠に得難きの才なり其事蹟は前號列女欄内に詳かなれはこれを略す只此文法は婦女社會に傳へて長く保存し師とし學ぶへき所なり後光明帝は侍臣の此書を讀婬奔に流るゝもののあるを以て之を讀むを禁じ給ひしと聞も這は時勢の弊を矯正したまふ叡慮よりいづる所にして今猶此書を見る婦女は注意あるべき事なりさて此同時に在ては婦女の才學あるもの頗る多し式部の女賢子は狹衣物語を著し清少納言は枕の草紙を著し赤染衛門の榮花物語等此他の和歌に巧みなるもの其の集實に枚擧するに遑あらざるなり

以上列擧せるが如く取つて以て師となすべきもの甚た少からす豈にこれを措て彼れをのみ學ぶを要せんや故に世の女子教育に從事するの人は宜くこゝに看るあり彼此折衷して以て教を垂れなば婦女社會の進歩は駸々乎として速かに興成に文明の母と稱すべきもの陸續輩出し英に駕し米を衝く蓋し近きにあらんのみ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

○行啓　両皇后宮にハ去る九日上野公園に行啓あらせられ水產共進會幷に東洋繪畫共進會の陳列品等を巡覽ありし上博物館にて跡見花蹊中林淸淑高林芳谷杉浦玉舟野口小蘋伊東古仙武村耕靄吉村玄ま狩野ひさ松平花壽河鍋曉翠佐久間棲谷富田花汀佐竹まつ杉浦楪崖合田愛竹十六女史の席書を御覽あり夫より動物園に成らせられし後還御遊ハされしが當日皇太后の御陪乘は万里小路典侍供奉ハ杉太夫兒玉亮中御門掌侍吉見權掌侍松室命婦梨木權命婦等又皇后宮の御陪乘ハ室町典侍供奉ハ香川太夫三宮亮高階侍醫唐橋掌侍万里小路權掌侍三上七等出仕西命婦等なりしやに承ハれり

○文部大臣　森文部大臣にハ去る十日一週間の見込にて豆州熱海の温泉へ赴かれたる由

○新任學習院長　大鳥元老院議官ハ去る十日宮内省に於て學習院長に兼任されたり

○華族女學校授業時間　華族女學校にてハ去る八日より當分のうち授業時間を午前八時より午後二時に改められしと云ふ

○新定學科　理科大學にて今度新たに定められし學科は物理學、純正化學、星學、數學、動物學、地質學、地震學、植物學の八科なりとぞ

○大學院學生等諸規程　帝國大學にてハこの程諸規程を左の通り定められたる由

大學院規程

第一大學院に入る學生ハ其特に攻究せんと欲する學科を定めて帝國大學總長に願出へし學力優等品行端正の者に限り之を許可す分科大學卒業生に非る者ハ特に設けたる定期の試驗に依り其學力を撿定す○第二帝國大學総長ハ大學院學生の攷究せんと欲する學科の主管分科大學長に諮詢し教授の中より其指導を擔當すべき者を指定し學生ハ其指導に從ひ攷究の業に從事す○第三大學院學生ハ給費及自費とす○第四大學院の給費學生ハ評議會の議を經て定員内を以て總長特に之を命し定規の手當及學術若くハ技藝攷究の費用を給す○第五大學院の自費學生ハ學術若くハ技藝攷究の費用を辨せしむ但し其費用を補助するとあるべし○第六大學院學生の學術若くハ技藝攷究の期限ハ二年を超へからす其試驗ハ毎年十月に於て之を行ふ○第七大學院に於て特に攷究せんと欲する事項ハ評議會の議を經て之を定め總長其の委員を命す

（以下次號）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○清國婦人の權理　清國にては此頃婦人の權理に關する議論次第に囂々しくならんとするの狀勢あり元來清國の風習にて貴婦人とも云はるゝものは決して多人群集の場所に出ると無かりしも近來は較や開けたりと見えて劇場又は公衆の歡樂する場所にて之を見受ること珍らしからずされば當時北京の知事にて守舊家なる何某は斯く貴婦人の位地の次第に改良せるを見て痛くも慨嘆なし天子に建言なしたる由なるが其建言中には今後如何なる場所に拘らず衆人輻輳の地に於て貴婦人を見受る時は其召連れ居る侍女に非常なる罰を申附け若し又侍女其他從者なき時は其貴婦人の主人を暫に處せへく但し其主人たる者官吏なれば其の職を免し兵隊なれば笞刑に行ふべし抔いと怕るべき箇條も見えたりと云ふと去る四月九日のジャパンメールニ見ゆ

○觀櫻　東京女子師範校の教員幷に生徒一同には去る日觀櫻かたく＼船を墨水に泛へて唱歌の演習をせられたりと云ふ

○幼稚園　芝公園地内なる幼稚園は今度其の園長を改められし由にて現在生徒の數は百四名内男六十六名女三十八名役員は園長兼保姆一名保姆一名同補四名書記一名なりと

○英國大學の競漕會　四月四日倫敦發の電報を去る六日發兌のジャパンメールに掲載したり曰く
オックスフォルド及びケンブリッヂ兩大學の競漕會は烈しき競漕の末僅か端舟の長さ四分一前後にて遂にケンブリッヂの勝となれり

○伊藤伯爵夫人　仝夫人には去る十日高輪御殿山の別莊に觀櫻の宴を開かれ華族女學校學監下田歌子幷に同氏の塾生を招かれたるやに聞く

○感化院第一期報告　感化院にては此程院長より第一期の報告をせられたる由今其生徒の種類賞擧を拔きて記載せんに入院の生徒は四十名ありて其中本科生徒の種類は父母の慈愛度に過きて遊蕩に至りし者六名繼母の手に人となり不行跡に至りし者三名父母死亡親戚の手に育せられ敎なくして不品行に至りし者六名父母無識にして子を敎さる爲めに不品行に至りし者五名父母の一人死し養育の道を失ひし者八名一時の情欲の爲めに放蕩せし者一名生質怠惰の者七名にて中品行上賞擧を受けし者十四名攻業上賞を得し者十四名ありし

○留學資金　三條華族會館長並びに伊藤宮内大臣等の發企にて今回會館内へ海外留學資金の積立法を設け同族中の子弟滿十五才に至り身体不健康ならさるものは必す留學せしめんと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て頻りに計畫し居らるゝとの事

○洋婦の投身　京都府下に居留する宣敎師ダウヰス氏の妻女は去る六日神戸拔錨の汽船名古屋丸に搭して東京へ來らるゝ途中七日午後遠州灘にさし懸る折しも他の外國婦人と共に甲板に出て逍遙なし居たりしが其の婦人はやがて別れを告げて甲板より下に降りし間に如何しけん不圖見えずなりぬされば他の婦人は此事を船長に告げて遍く船中をたづね索めたれども更に影だに見えず是は正しく逍遙の折風の爲め海中に吹き込まれたる歟と思へば左樣の景色もなく舳の方に備へある椅子の上に帽子の殘り居るを發見したれば全く先頃より不眠病を患ひ居られしゆゑ一時取のぼせて投身されたるものならんと云えり夫れにしても後に殘りし四人の小兒こそまことに憫然なれ

◎庭訓の鑑

○東照宮御消息の續　堀田美津子

一　身の嗜みの事人々好嫌ひ得手不得手有之事にて候兎角物ののたよらぬ樣に爲致可申事に候縱へば四季の花色々さまざまに咲候て何れも詠め有之候どくだみと申草は華も香もなしきものにて何の用にも立申さゞる草の根なれども濕の藥には煎じて用ひ候へば藥にて候其の如く何藝にても人の覺たる事は承置何ぞの時に入用あるものにて候第一自身不得手の事は人の致すもいみきらひ候もの間々有之事に候夫れ大名の別して不致事に候我等中年の比迄碁を一向不存人の致すも不用のもの氣づまりにて用にも立ぬ事とばかり存じ好み候ものはうつけものゝ樣に存候所ろ近年碁を覺候へば雨降の徒然に慰みにもあり先達てうつけ者と存候者を相手に致し候是にて察し候に何事も詮のなき事は古へより致し置ぬ事に候呉々も自分氣に入候者を善と存じ氣にいらぬ者を惡と存せぬ樣に致すこそ第一の事と存候へ只身の智惠のとゞかぬ事を朝夕に存る事に候

一　幼年のもの得手氣にいらぬ事を申聞せ候時側に有あふつれなど投はふり物を損じ候事虫氣故と斗心得捨置候事甚た親の毒を增と申ものにて候先虫氣に候はゞ灸治藥を用ひつのらぬ樣に可致事に候成人の後も何ぞ氣にいらぬ事有之候へば物を損ひ候事間々有之候これ全く我儘の募候故の事に候器は損じ候ても其通の事に候へども後は召仕候もの氣にいらぬ事申す迚手討にいたし氣がさえ〴〵と致したる樣に覺申す樣に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

成行事に候病氣根入ふかくならぬ先にはやく直す事に候

一　堪忍ハ身を守る第一に候何事の藝術も堪忍なくてハ致し覺へ候事もならぬものにて候殊に一國を治んと存する身ハ一入專ら心懸可申事に候天道に叶ふハ身の我儘いたさぬ堪忍也地の理にかなふハ先祖よりの一郡一城を失ハぬ堪忍人和を得るも我氣隨をいたさぬ堪忍其外身躰とゞく堪忍を用ひ候事に候仁ハ我召仕ふもの幷に民百性の賞罰を正しくいたし疎きをも惠み近きをも罰そ是仁の堪忍也君に仕へて身命を顧ず一度も約をたがへすこれ義の堪忍也人の事を先にして身の事を後にし起るよりねる迄行義正しくする是禮の堪忍也我に慢した人をないがしろにする事をせず是智の堪忍也君父に仕ふるよりはじめ假初にも表裏輕薄をなさず古法を守り我智のまゝに行ハず是信の堪忍也五躰の堪忍ハ我物好をせず美器美服美色に心を動さず是目の堪忍也美香を好まず穢しき匂にもをかされず是鼻の堪忍也雷又ハ戰場にて弓鐵炮の音にも恐れず先陣にすゝみ高名を逐る是耳の堪忍也酒を過さず美味を好まず是口の堪忍也其外手足にも堪忍あるなり右堪忍を一生の間至たく守る人ハ大名ハ家を起し國を治む小身ハ身上を起し家を修む堪忍のなる事ハ十全に至らねば家をも國をも起す事ハならぬもの也たとへば十の內を八九守り一二破り候へばその破れし所にて夫迄の堪忍ハ徒になり行ものにて候大方の堪忍つよき者の是迄ハこらえしがもはや堪忍ならぬと申す事間々申す事に候へども夫も義によりて破るハ破るといふとも行ハるゝものにて候へども多くハ我智惠の短きより我儘に落入て身を果し家を破り國郡を失ふたとへば弓を射る者の手前を能く引渡してなれにてゆるみ又ハ持出し杯して初のよき手前もいたづらになる樣成ものにて候とかく堪忍ハ十全あらねば堪忍の詮ハなき事に候日本にて堪忍十全の者ハ楠正成一人にて候始より一向堪忍の氣なしと言ばにも出し行ひしハ近世武田勝頼にて候夫故一生の行ひ道にかなはず先祖より數代の家を失ひ身を果し織田殿ハ近世の名將にて人をも能つかひ大氣にて智勇も勝し人にて候へども堪忍七八にて破れ候故光秀が事も起り候太閤樣にハ古今の大氣智勇至て堪忍强かりける故卑賤より二十年の內に天下の主にもなられ候ほどの事に候へども餘り大氣故分限の堪忍やぶれ候大氣ほど能き事ハなく候へども夫も身のほどをしらず萬事花麗に過分の知行其外人に施それ大氣にてハなく奢と申すものにて知行其外人に施す品も其分に當ることそよく候へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎英語の栞　附羅馬字はなし

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲)　Grasp all, lose all.
　　　㊁ ㊀ ㊃ ㊂

〔意譯〕残らず握らんとせば残らず失ふ

(乙)　Many men of many minds.
　　　㊃ ㊄ ㊂ ㊀ ㊁

〔意譯〕十人は十種

(丙)　A bird in the hand is worth two in the bush.
　　　㊂ ㊃ ㊁ ㊀ ㊈ ㊇ ㊆ ㊅ ㊄

〔意譯〕手の中なる小鳥一羽は木になる二羽に價ひす（手に取らぬ事は當てにならぬ）

○泰西箴諺の直譯

（甲）㊀總体、全數、總計（を）㊁握る㊂㊀に同じ（を）㊃失ふ

（乙）㊀多き㊁心㊂之㊃多くの㊄人

（丙）㊀手（に）㊁於ての㊂一或れ或の意を示す冠辞にして乃ち一羽の鳥を示そ㊃小鳥（は）㊄茂樹（に）㊅於ての㊆二（の）㊇價ひ（で）㊈有る

KAI-INU NO TANSOKU.

New York yori hodo tōkaranu tokoro ni, hitori no onua ari; kodomo no toki, ayamachite kega wo nasisi yori, dandan to tosi tsuki wo hete, tsuini, migi no te wa yō wo nasazu,—katawa-mono to naritari. Chikagoro no koto narisi to ka, aru geka isha ga kono onna no te no niku wo kirisute, *inu* no ato-asi no niku wo kiritorite, sono kizu ni nui-tsuke ryōjisitaru ni yoku ie-tsukite, nanigoto wo nasu nimo sasitsukae naku atarimae no onna to nari-keri. (Koremade wa makoto no hanasi). Kore to iu mo chikagoro masumasu ijutsu no hiraketo susumi=taru ni yoru nari to hanasi suru soba ni fusi itaru kai-inu ga: "*Komatta mono ja!*"

yo-no-naka niwa, yorokobu mono areba, *ureuru mono* ari.

二百八十三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎内外列女傳

○松田さつ女の傳　（續稿）

扨詮議も殘らず濟みて周防守にハ役人どもへそれ〴〵申渡を命せられしが局澤野が弟落合某にハ澤野事重き役義相勤めながら不道の致方有之候て道が下女さつに殺害せらるゝこと最も不屆きなり死骸ハ則ち引渡候間受取申すべし右さつ事ハ主人の敵ゆゑ澤野を討取りたれバ意趣ハ殘るまじ然らハ自今以後さつに對し親類とも毛頭意趣なき旨口書に印形いたすべし澤野諸道具ハ欠所に申付候なり又おみち親岡本佐五右衛門へハ澤野事お道へ對し恥辱を與えし所ろお道一分立難く自害せしに下女さつ當の敵を討取申候お道より送りし文詮議の爲め披見せしに主人にもさすが武士の娘なりと殊の外賞美被致候文庫及び諸道具ハ殘らず引取申さるべくお道事ハこれより菩提所へ遣さるべく候又さつが親松田八助へハさつ事主人自害の上當の敵捨置き難く其の刀にて澤野を殺害いたし其趣吟味を遂候處報仇に相違なき事明白の證據有之殊更女の身として神妙に存られ候澤野親類ともさつに對し自今以後遺恨是れなき趣口書に印形を取り御自分へ下され候由申渡し其後堀次郎太夫私宅へ招き主人にも息女の忠節を甚た感賞せられ主人存ずる旨是ある故此方ゟ近日御左右申すべしと告けられけれバ八助ハ厚く禮謝してさつを伴ひ歸れり翌日に至りてお道の親の岡本佐五右衛門ハ八助宅へ尋ね來りさつに逢ふて其忠節の段厚く禮を述べ又八助に向ひ娘事ハ拙者が名を汚さん事を恥ちて自殺せり然るに息女の忠節ゆゑ汚名も雪ぎ拜謝するに辞なし何卒さつどのハ拙者が娘に下さるべし妻儀一向に願奉ると懇に乞けれハ八助夫婦も許諾しけれども周防守の内意もあれば御答未た致難しと夫婦さつ諸とも涙にぞ暮れにけるさるほどに佐五右衛門ハ厚くも禮謝して歸りたるにぞ四月七日に至り堀次郎太夫より八助を呼て同役森井甚右衛門與目付小池利右衛門ゟ申けるハ今般息女を中老に召出され度趣なりと八助ハ娘事大役の勤心得なき由固辞しけれ共達ては受申すべしとありて八助も漸くに御受致せり因て切米四十俵に五人扶持引越料金百兩時服五襲賜ふよし書付にてこれを渡さる八助ハ御禮申し家に歸りて右之趣佐五衛門にも告けれバ佐五衛門夫婦も大に悅び是非にとさつを養女に貰ひ三五郎おみやにも兄弟の盃をさせ其の後に至りてさつハ邸へ引移り名を松尾と改めつ勤仕したるが廿七才の夏なりけん用人神尾某甚た其の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

忠節をよみし願ふて妻となし後には子もあまた出來けるが八助夫婦は三田邊に岡本氏と松尾とに町屋敷を貰ひ神尾氏よりも合力をうけて繁昌しけるは偏に松尾事さつ女の忠節の著るしきによれるなるべし今や時勢こそ違へ世の婦女たちも斯ゝる魂なくてはかなふまじき事なりかし　（畢）

○相澤いゑ子の譽れ

舊幕府の盛りなる頃御先手鐵砲頭布施孫兵衛の組同心に相澤宇右衛門と云へるあり其女いゑ子は幼年より和歌の道を嗜み其の十五才の時の詠草に

學へたゝ夕に習ふ道のへのつゆの命のあすきゆるとも

と聖語をよく詠み協へしかばこれよりして其名世上に高く遂に其の筋にまで聞ゑ利根姫君の御意にかなひて召出さるゝことゝなり漸々立身して後には重き役をも勤め父母の名までも世上に揚げけるとなん

○遊女花岡の孝心

其の遊女たるは學ぶべからざるも其の至孝なるは人として必ずしも學ばざるべからざるの一遊女あり其の名をおやそと呼び元はよしある武士の女なりしが其の父沒命りし後は兄なる人あとをつぎて相勤め居りしも身持あしくして遂に出奔しゝるに父母なりける人姉とこのおやすとを引連て屋敷を立退き駒込世尊院前なる德五郎と云へるものゝ店子にて林藏なる者に再醮したり然るに林藏は病身なれば床に就日は多けれども賣買にとて出ゆく日の稀れなるより一家四口を糊する能はそ借金は家に積みて山を作し債鬼は戸に充ちて市を做し米櫃は米あらざるに却て鼠のすみかとなり曲突は火の氣たえて全く蜘蛛の網を張りかゝるありさまなれば早晩うえて死ぬるより外はあらじと思へども金銭は天より降るものにあらず又地よりも湧くものならねば手を動かさずして得んやうなくさりとて女子供の身にしては手内職さへ十分ならずこの時おやすは年紀僅ゕ三五の春を迎ふるばかりなりしが見るに見かねて其身を苦海に沈めてなりとも繼父實母の困難を救ふて樂に過さしめんと或一日父母に賣身のことを相談なせしに父母はその孝心を感するばかりいかにも遊女となすことを忍びかねたるありさまにおやすはいとゞ氣を激まし涙かくして兒はかゝる貧しき家に襤褸を纏ふて一生を暮すの心さらさらなし朝には源氏を送りて夕には平家を迎ふも錦のしとねに起臥して金襴の裲襠を着さんざめかして年月を過さんことこそ身の願ひ若し許されなば兒自身に吉原とやらんに出浮て身代金も入

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

らばこそ頼みて遊女となふんのみ悔るなかれと云ひ放ち詐つて門口へ飛び出さんず状景を示せしかば父母も強て止むることを得す漸やく許容なしたりける依ておやすも大に喜び身代金十八両にて江戸町の玉屋山三郎方に身を鬻き名も花岡と改めて路傍の柳人の攀るに任せ墻外の花人の折るを縦せしかば突出しの日よりして其の噂五町に高くいまた玉桂の附新造なるも頗る全盛を極めしかば随て客よりの貰物も多く皆これを家に贈りて父母を賑わせしにぞいつしか其の孝上に聞え安政四年の閏五月左の如く褒賞され遂にハ全盛匹なき花魁となり千金公子に贖れしとなん

浅草山宿町所持地面ょ假宅罷在い
新吉原江戸町一丁目家持遊女屋

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

玉屋　山三郎

抱遊女やすこと

花　岡

其方儀武家娘にて實父病死後兄相勤候處致出奔候に付母ふき儀幷に姉いのを連れ屋舗を退身いたし駒込世尊院前德五郎店林藏方へ再緣いたし候處繼父林藏儀多病にて渡世をも成兼暮し方差支候を見かね身賣致身代金を以て取續候樣申出當主人方へ身代金十八兩にて遊女奉公に住込み右金子を以て取續致させ候處去る丑年中林藏病死いたし後家ぐらし賃仕事いたし根津門前町庄八郎店に罷在候處去る卯年十月地震にて長屋潰れ駒込千駄木町に林跡地又八郎店へ引移り候處翌年八月大風雨にて小屋潰れ孤張りの小屋內に相凌ぎ居りふき一人の手業にて漸々いとなミ致し候處厄介多く難澁を察し客より貰受候金子の內其方ハ聊の品にても買求めす厚く心掛月々金二分三分づゝ折節衣類等相添母幷ニ兄弟へ相送り遊女に相成る頃より追々金五十二兩貢ぎとして相送り其方ハ實躰にて重立候遊女玉かづらに附新造と唱へ万端深切に世話いたし遊女の內心得違のものへハ歲若の內より教諭を加へ自のら遊女共の風俗も宜しく主人の爲めにも相成遊女の身にて母に孝養を盡し兄弟どもへ慈愛を加へ候段別して寄特の儀に付爲褒美白銀三枚とらせ遣す

閏五月廿六日

○女優ボーターの豪膽　（表誹傳）

英國の俳優にボーターと云える一女子あり其の容貌ハ誠ニ軟弱にして殆んと衣に堪へざるが如くなれども其の膽力の大なることハ男兒と雖も遠く及ばず紀元千七百三十一年の夏にてやあらんこの人馬車に鞭ちて近村に遊びたりしに人家遠き林のうちにて突然一個の大漢兇器を携えて現れ出物を奪わんと脅やかせしにボーターハ更に驚く色なく徐ろにピストルを採り出してこれに擬しとく／＼其の非を悔悛めて立去らずバ只た一發の下に汝が生命を絕んのみいかにやいかにと詰寄たるに賊ハ懼れ戰ぎつ偏へに謝して云えるやう小哥ことハまこと盜賊にハあらさるなり但た家の貧しきがためニ詮方なくこの擧動に及びたるなれ哀れ無放を許え玉ハゞ終生の御恩にこそと其の家居さへ隱くすことなく告け知らせ言々聲澁り語々涙を含みまことに詐りならぬやう覺られしかば擬したるピストルを袋に収め懷中より一銅錢を出て投與えつゝ馬に鞭くれ去んとする折しも馬驟かに駭きて車覆かへりければボー

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ターハ地上に投げられいたく其股を傷けたりされ共豪膽のポーターなれば決して是に屈せす再ひ車にうち乗りて告け知らせさる賊の住家に赴き見れば果して賊の云ひたるに毫違はす軒あらハにして月燈火に代ハり壁おちて風肌膚よ砭するばかり人の住むべき家とも思ハれぬ程なるにポーターハかねて慈善の心厚き人なれバ徒らに見過すに忍ひす廣く知音のものをかたらひ後日金六十封を醵して之れに贈り遂よ其賊心をして悔悛めしめしと云ふ其慈善心も亦た遠く男兒の及ハさる所にこそ

◎群芳詞苑

○忍待悲　森田　米子
身をうしと思ふにつけて悲しきハつれなき人を待よなり鳬

○同し題　大軒　常子
小夜ふけて待わひかねし恨をハあけて言へき折もあらなん

○同し題　橘　禮子
世の中に苦しき物ハ忍ひつゝつれなき人をまつ夜なりけり

○同し題　増山三雪子
菅莚しきしのふ身のくるしさハいたつら臥よ待夜なりけり

○同し題　橘　道守
塵にたちもよそにハもれし宵々に拂はてそまつねやの小枕

○同し題　大道寺繁禎
人しれす閨の戸明て待よはゝ月のかけさえつゝましきかな

○河邊柳　鈴木　房政
春されハ川ろひやなき漕く舟の登りくたりよ色まさりゆく

○同し題　濱武　愼
打なひくふる川のへの青柳ハ空にしられぬ雨かとそおもふ

○同し題　村上　復子
河のへのみたるゝ蔭に船とめて見て社ゆかめ青やきのいと

○同し題　日野　資德
角田川花のおやれるきし波にまつ打ろふるあをやきのいと

○旅宿山吹　西京　上田　重女
旅寐してあさたつ袖にこほれけり露めけらしき山吹のはな

○失題　西京　岸田　俊子
百美叢中孰最誇。御簾風暖漾紅霞。宮人應是妬春甚。曉起妝前不對花。

評自是佳人口吻

三島籐子ぬしハ中洲先生の令孃なり去年七月齢十四にして

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

内攘を思いて失られさりての藤子ぬしハ容貌のあてやかなるのみならず其心ハへ優にやさしく學才も秀ありしが天此人に年を假さずまことに惜むべきとなりし今中洲先生親ら撰まれし墓表を得たれば左に

亡女藤子墓表

余有三男女。而二女皆以嬰孩殤。季女殆及笄年。今又殤矣。豈忍表之。然其狀亦不忍沒焉。」女名藤子。母妹尾氏。明治五年三月廿一日生于備中高梁。其秋從余遷東京。七歲入東京師範學校內小學。每試業。以優等受重賞。十三歲卒業。入下田氏桃夭校。受和漢書。及國詩書計裁縫等諸科。僅一年。超登三等。以暇日學茶儀於正二位藤波公。琴於松音山勢氏。皆善之。十八年六月患內癰。百方醫療。終不起。寔七月五日也。齡僅十四歲。葬谷中天王寺。」女性寡默婉順。而敏悟嗜學。未嘗以祁寒隆暑廢。夜則剔燭誦讀。每到深更。病既彌留。猶問父母曰。何日再上校。父母依違答以在近。而胸則如割。」嗚呼余魯鈍。白首無成。而勉學猶人。女勉強頗相肖。非餘子所及。余常曰使汝爲男子。則善繼箕裘。而一朝先逝。可勝惋惜哉。偶檢遺稿。有詠落梅國什。似豫作絕命詞者。一讀黯然。遂揭以代銘曰

奈都可志幾。香遠太耳。殘世。梅花。木末空久。散果奴登毛

◎女紅

老父三嶋毅收涕撰

（前號續）

○香道

前號記載する外又雪月花香松竹梅香難波名所香四節香六歌仙香新月香補任香四季香禁裏香異蹴鞠香源氏蹴鞠香忍香異忍香戀題香玉川香異四季香又四季香異名所香一二三香異小鳥香等あり而して香棚と云へるものありこれに錺るにハ一定の法あり（圖ハ略す）先つ十炷香箱上に置く時ハ乱箱下に置き乱箱上に置く時ハ十炷香箱下に置くなり袋戸の内にハ沈箱と伽羅割道具を入れ置なり袋戸の繪ハ四季を書く櫻牡丹栗に鶉芦に雁雪に鷺などこれ定法なりこゝに香道具の名目を記す

薫物箱　今世上に沈箱と云ふもの元來薫物箱なり
　源氏六種の薫物をおさむ
　諸事の香道具を
十炷香箱　入れおくなり
香爐　對の香爐を賞翫とぞ必す焼物の香爐を用ゆ
　ぬりたる木香爐金なとハもちひす
銀葉　雲母のものを用ゆ金銀ののべがねハ太き
　ものに用ゆ香にハもちゐす
同香合　銀葉香箱に
　入をくなり

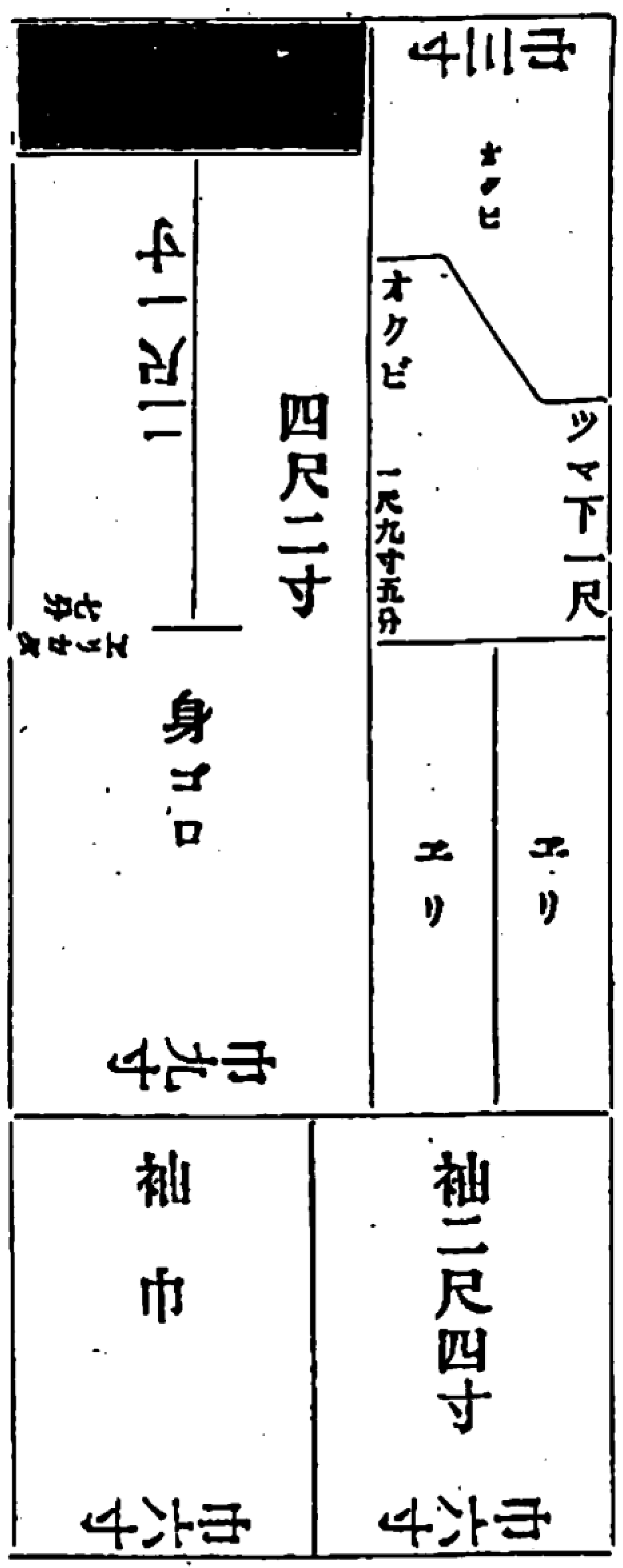
（以下續出）

○裁縫　一ッ身一尺二寸巾の裁方

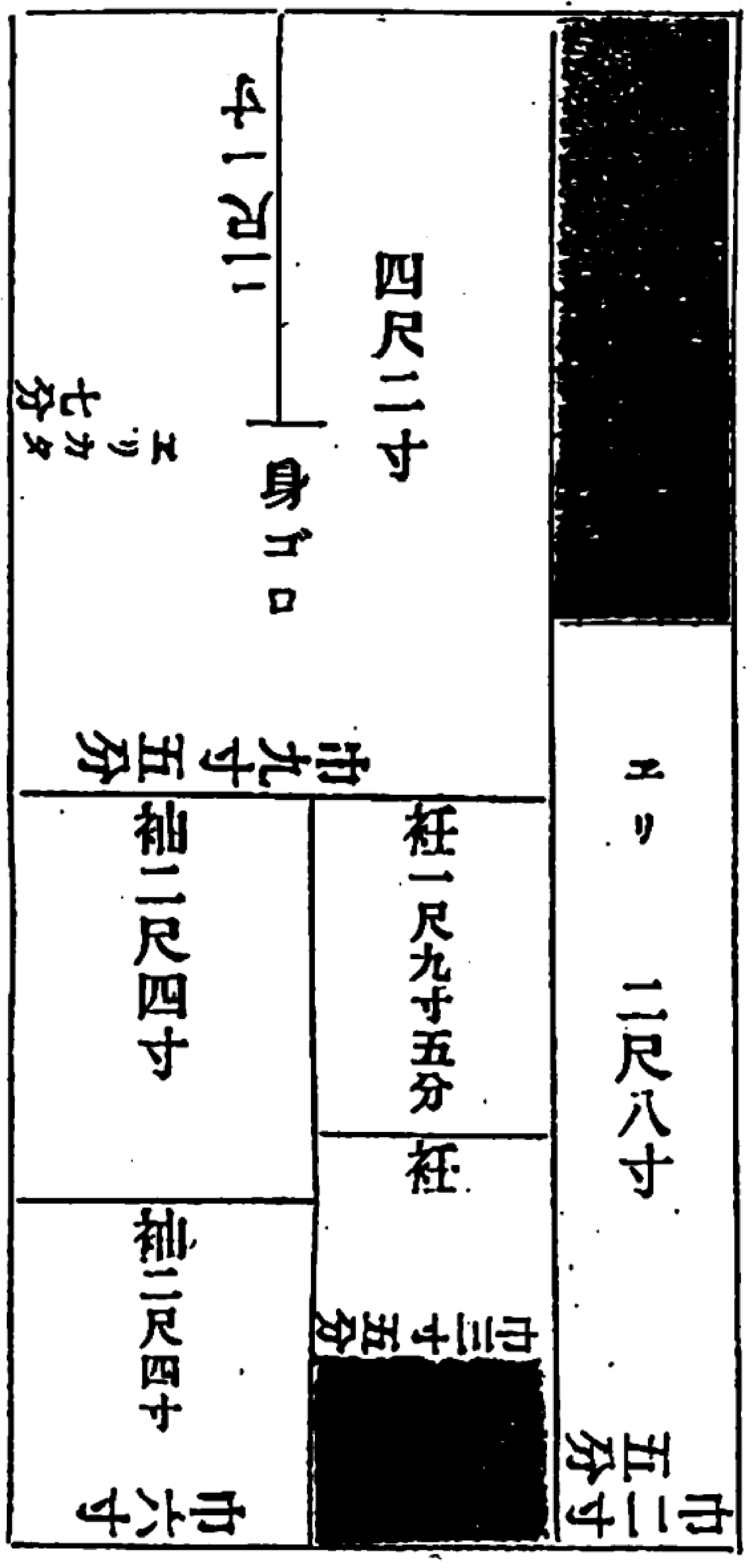
通常一ッ身の裁方幷に大坂裁とも前號に於て掲戴したれバ看

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

客は已に會得せられしならん因て今又た六尺七寸五分の長にて一尺二寸巾のものを丈二尺一寸袖一尺二寸に裁つの圖を掲け出さん



又一ッ身紋織長さ九尺巾一尺二寸にて丈二尺一寸袖一尺二寸を裁切の圖は左の如し

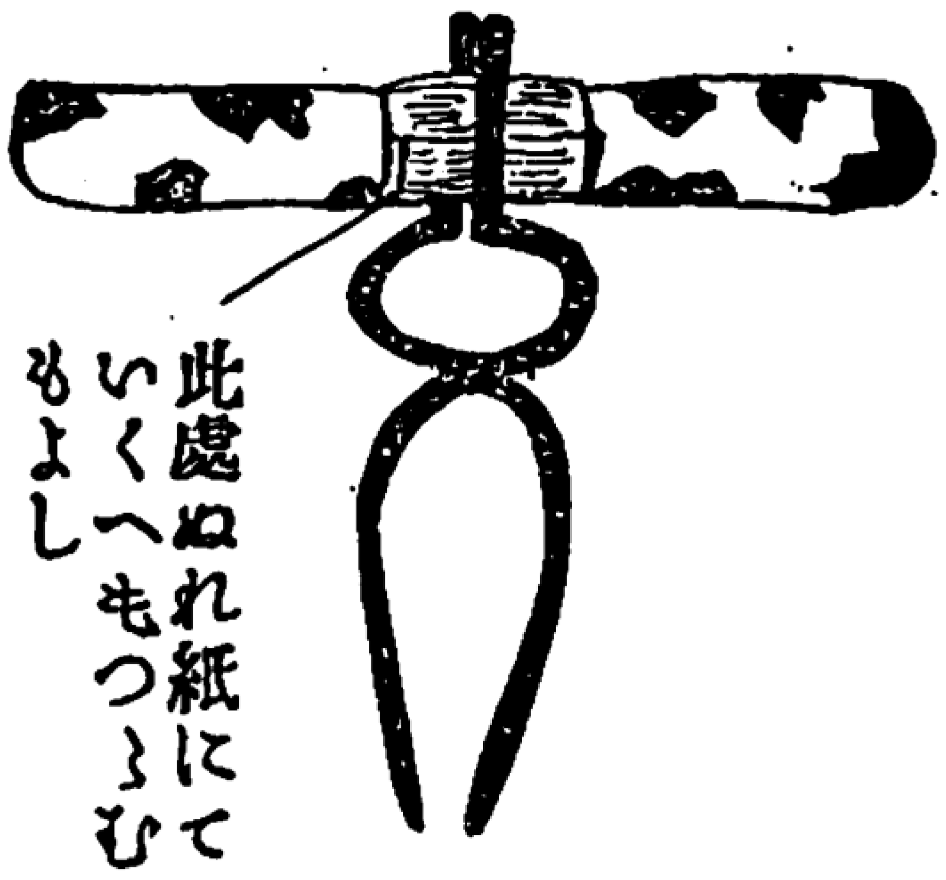


○紅染の紅を拔く法

染めたる衣服の紅を拔かんには早稻藁の灰汁をもてよく揉み洗ふべしおつること妙なり

○べつかうのつぎやう

べつかうの櫛にてもまた笄にても折れたる所のつぎ口をよく合せしめしたる竹の皮にて一重まき其の上を火にて赤めたる鐵鋏を以て左圖の如くはさみ水へひたせばしう〳〵と湧かへるを其儘引あぐれば水のしめりにてよき加減にべつ甲とろけ合ふなりさてしばらくありて又水へ附てさまし竹の皮をはづしむくの葉にて水みがきして仕立あぐべし傷つかずしてよくつがるなり



○ワールン氏西洋料理法の飜譯（前號の續き）

犢肉の腿及ひ肩肉又は頸肉を燒肉となすに適せり時としては胸肉を燒き肉となすことありと雖も之は小人數の家内に限ることにて肘肉と同じく蒸燻となすを常とせり肘肉を煮て旱芹

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

とバタとを加へ料理をることあり小牛の頭は甚だ美なるものにて脛肉もまた蒸燂となしあるひは煮あるひは砂糖煮となして美なりとす犢肉はソップとなすに肉汁おほくして甚だよろし

羊肉は牡羊の肉を最もよろしとす後脚の上部に脂肪の瘤ありて肉色は暗黒を帯び脂肪の多き等を以てこれを見分くべし羊の年齢を知るに肉色を見る事最も必要なり老羊はその色濃くして赤し總て羊は四五歳のものをよろしとなせども斯の如きハ農家抔の自家にて飼養せるものゝ外は店賣にては甚だ得難きことなり

羊肉は總て燒肉となすを得べしと雖も燒肉となすには鞍肉を最もよろしとすその次は腰肉（腰肉と後脚と切り離さゞるもの）なり前脛および頸肉は煮ものに適しチョップス（羊肉のよき所の小片を云ふ）は腰肉より取りカツレツは腰肉の厚き方の切り端又は頸肉の後部或は脛肉の中部より取るをよしとす脛肉は時として乾物となしハムの如く燻べ用ゆることあり胸肉は多く鹽漬となして煮ることあり頸肉の前部ハ白米とともに蒸燂となし甚だ美なり

（以下次號）

◎稗史小説

○英國小説 剪燈情話（第一回の續）

山橋村ニ排士遇レ友ニ　禮拜堂ニ非利成レ親ヲ

さても愛格ハ非利に伴れて一室内に到るやまたも深く痛嘆し泣て非利に謂へるやう妾が心ハ裂くるが如く實に悲傷に堪へさるなりと看官請ふ想へ這の寸心の裂くるが如しとハこれ何に縁て然るかを蓋し女子ハ深くも丈夫を愛すれど家を離るゝの太はざ遠きを悲み且つハ父母の已れを思ふの切なるべきを察したれば其の愁ふる心の禁すると能ハさるも亦道理にこそ而してこの女子ハ年紀僅かに十六の春を迎へしのみか門を出るの時父母ハ其の細き故を知らされハ或ハこれ私奔にハあらさるゝ或ハ又騙されて人の小星とやなりつらんかと疑がハれんさらバ將來勢必す往來も斷絶しまた極りなきの恩に酬ふことも能ハざるべしと思へバなり大凡英國の習俗ハ女もし人の妾ともなるときハ父母賤惡し往來をもなさす愛格ハ其の家世もと微賤なるを以て深くも父母のこの意見を懷くを怕れてとのほか悲傷の狀に堪へそ非利云ふ我か最とも歡喜の事ハ已に成る倘ほなんぞ悲憂我が意を傷しむるや愛格ハ漸やく涙を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

拂ひ云ふ事此の如しと雖も已に双親に違背す夫れ之をいかんせん吾か罪實に大なり非利曰ふ吾が伯叔春秋已に高し吾れ機會を待ち光景を看言を進めて以て成婚の事を稟明すべし此時に至らば吾愛妻の名尊く家富みて親戚朋友もみな驚喜歎羨せざるなきハ必するところなり只た隱秘數月以て後日の福を成さんのみ何ぞ必しも眼前を慮りて後來を謀らざる且つ父母を去る遠しと雖も我かこゝにありて疼愛珍惜るあり願くハ再ひ家を思ふこと勿れと愛格ハ首を垂れ細かに聽き居たるが忽焉首を仰き一顧して愁雲已に散じたるが如く笑顔温容綏々言つて曰く郎の今妾を寵そるハ實に深しとす妾ハ惟た郎の恩愛をうくるを以て無量の幸福なりとすこれ又万千の憂愁を散すへし妾ハ誓て怨意を懷かすと非利ハ此一言に愛格を擁して其の香肌を撫摩り親ら嘆しつゝ嗚呼卿ハこれ我か終身愛玉寶珠なりと安慰し了てすぐに身を起し外の方に出て排士の手を握り這事老兄の外に宜播するを怕れすと雖も只た本郷の証人をして洩らさしむる勿れと排士ハ之れを聞きて双眉を皺めながら鼻子の内にて一聲嗤笑して云ふこれ太た難しとする所と知らず後事應さに如何なるべきぞ須らく下回の續話を俟て

（第一回畢）

○御伽草

○五尺の體半文錢に値ふす

或る處に文盲先生ありおのが名前とても讀ミえねるより其女房ハいたく心配しかくてハ早晩あごが乾上るに相違なしとて頻りに學問することを勸めたれば先生ハ朧膳と云ふ顔付にて「お卿ハ學問々々としきりに勸むるが學問すればどんな好事がわるノダヘ」女房ハ「さればなり學問さえすれば此世ハ樂に過されます天神記にも云ひますでハありませんか一字千金二千金と今のやうに食ふや食ハずの貧乏もヂッキに直りマサチー」先生笑つて「胡言々々おれが此の大きな體でさへ半文の錢に値らぬのに一字知つたとてどうして千圓も贏めるものか先つ暫く學問ハよして矢張貧乏して居ませう

評我邦下等社會有往々如斯先生不亦困者乎

○屁香ばし

一貴人のお髯の塵を拂ふ佞人某生なるものあり或一日いつものごとく貴人の前に奉仕し居りしが偶ま貴人プィと一聲お屁を洩されしに生ハ忽ち鼻動めかし「イヤこれハ妙ダ御前のお屁ハ沈香の香が致シマス」ト云ふをば聞きて貴人ハ少しく慚

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

られしにや「今日ハ腹内の工合誠に常ならず今洩せしところの屁まさしく沈香の香せバ腸に變あらん元と屁ハ穀物消化の氣なれバ悪臭あるをよしとするなり」と生ハ手を以て氣をあのれの方へ招き再ひ鼻を動かして嗅て云ふ「イヤ先刻ハ沈香の香がするやうで五坐ましたが只今また嗅きますれば矢張悪臭かして來ました

評世間經濟之徒讀レ之蹴テ正レセ志ヲ

○字謎

こゝに二つの皿あり第一の皿ハ形影なけれども次の皿一川ハ形存す次の皿一つ形存そるが故に人生最も忌み悪くむの文字となる知らす何文字なるぞ　（一字）

○謎

人木に登つて草を被れバ母家の内にありて貝を拾ふ　（二字）

蒸氣船の山登りとかけて貧乏人の舊暦端午節句と解其心如何

○第十六號燈謎謎考物の解當者左の如し燈謎（第一鏡）番町鶴田清姐芝吉村玉姐築地溝口久姐（第二算盤）京橋堺美代姐仝友田貞姐吉村玉姐謎（第一舌出して涎を流そ）本所山下兼姐鶴田清姐堺美代姐吉村玉姐溝口久姐（第二むさし）吉村玉姐山下兼姐友田貞姐堺美代姐溝口久姐鶴田清姐考物（ふくろう）友田貞姐山下兼姐

◎机の塵

○木綿足袋

木綿足袋ハ長岡三齋の母始めて製らへしとぞこれ三齋が茶の會に出づるよ足冷ゆるとての事なりし由

○犯姦仕置

舊幕府の中ごろ定めありし密通の仕置とて浮世の夢てふ物の本に見えたるまゝこゝに掲けて以前ハ斯迄嚴しき定例なりしもこれを犯すもの多かりしよや今や以前に比して男女とも犯罪者の少きハ畢竟世開明に赴き女學のやゝ進歩したるによる者なる歟いかんを識者に質そ

密通乃仕置之事

一夫有之女奉公よ出傍輩并ひに外の者と密通致し候男女ハ共に死罪

一主人の妻へ艶書を附け又ハ忍入候もの死罪古例なり

一主人の後家と密通いたし候者古例後家下人とも追放

一妻下人とも密道いたし候者引廻の上下人獄門妻死罪

一妻欠落の上外の夫を持ち候者永く吉原へ被下　（以下次號）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

本多錦吉郎編
改正 **石版摺小學書手本**

自第一編至第七編 定價金三錢五厘宛
自第八編至第十四編 定價金四錢ッヽ
十四册郵税廿四錢

小學書學書其類少カラズト雖或ハ冗長ニ亘リ或ハ緻密ニ失シ能ク其當ヲ得タル者甚ダ稀ナルガ如シ然ルニ本編ハ凡ソ文部省改正書手本ニ倣ヒ專ラ書學ノ敎授法ニ基キ總テ目ニ慣レタルヲ集メ平易簡單ナルヲ主トシテ一ニ兒童ノ力ニ適センヿヲ務メ且徒ラニ外貌ヲ裝フヿヲナサス究メテ廉價ニシテ其實アルヿヲ先ニシ能ク敎授法ノ順序ヲ得タル無比ノ良書ナレハ夫ノ杜撰ニ集寫シタル者トハ自ラ異ナル所アルベシ全國ノ學生諸君購閲ノ上其言ノ謬ナラザルヿヲ知リ賜ヘ

明治十九年四月出版　東京　神田　**團々社支店**

中村敬宇先生序　湯目北水先生編纂
○**歐米女權** 全壹册 定價三十錢 郵便税四錢

東條竹翠著
○**婦女庭[illegible]ノ眞鏡** 絵入 なつき 全壹册 定價三十錢 郵便税四錢

七條峯太郎編輯
○女子必携 **女子作文楷梯** 女要用字類 和製中本全壹册 定價金貳拾貳錢 郵便税四錢

馬場香先生著
○**啞鈴體操新法** 美本全一册 定價金十錢 郵税金二錢

滑稽新話 **明治流行うそ八百** 壹册正價二十錢 郵税四錢

漢馬融撰 日本佐藤楳先生旁釋
○**忠經旁釋** 木板手刷 正價拾錢 郵税四錢

○**明治英名傳** 正價金三十錢 郵税共

○人命保險 **人間長壽法** 正價郵税共三十錢

○**清國漫遊誌** 正價金四十五錢 郵税自便

東京大賣捌所 **績文舍**

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 **績文舍**

持主兼編輯人 松本義弘
印刷人 初鹿野錦五郎

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 修正堂
同 神田區淡路町 同 巖々堂
同 神田區雉子町 團々社
同 日本橋區新葭町 良明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂
同 蠣殼町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂閣田
同 同本郷春木町貳丁目 解明堂
同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂
同 牛込區牛込神樂町 積善舍
大坂府備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目 立眞舍
藝州廣嶋大手町一丁目 早速社
江州彦根西内大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助
越後國長岡裏壹之町 大橋書房

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY